

社会科学学習指導案

神辺町立御野小学校 指導者 田口 潤子

1. 学 年 第5学年 2組 22名

2. 単元名 工業生産の発達とわたしたちの暮らし

3. 単元設定の理由

- 我が国は工業生産が盛んである。原材料を加工し、その形や性質を変えて生活や産業に役立つ製品を作り出している。工業製品では、機械工業で生産されたものが一番多く、その中でも、自動車は、生産量も生産額も輸出額も大きく、我が国の重要な工業製品である。また、主な原材料を輸入し、様々な関連工場で部品が作られ、組み立て工場で組み立てられる過程で、自動車を生産する人々の工夫や努力が見え、部品や組み立てられた自動車を運ぶ運輸の働きも見える。さらに、多くの自動車は外国へも輸出されており、貿易の働きもとらえさせることができる。
本単元は、学習指導要領第5学年の内容(2)にもとづいて設定され、その中で内容(2)ウはその取り扱いについて、工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸の働きについて考えられるようにする、と注釈がつけられている。このように、自動車生産を取り上げることは、日本の工業生産の特色を理解させていく上で効果的であると考えられる。また、生産（つくる）と貿易・運輸（運ぶ）を一連の流れの中で学習することで、原料を製品にする工業生産と、その過程をベルトコンベヤーのようにつなぐ貿易や運輸の働きを関連させて考えさせることもねらいである。
- 本学級は、「社会科が好き」「まあまあ好き」な児童と、「あまり好きではない」「好きではない」児童がちょうど半数ずつである。これまでに、教科書や資料集、インターネットを中心に調べ学習をしてきた。パソコン等を使った調べ学習には、ほとんどの子が意欲的に取り組むが、たくさんの資料の中から必要な資料を選択することが難しい児童も多く、課題に沿った資料を探し当てることがなかなかできない児童もいる。昨年度行った到達度学力検査(CRT)では、社会的な思考・判断、観察・資料活用 の技能・表現、社会的事象についての知識・理解という3つの観点においては、全国平均を1.2Pから3.7P上回っていたが、社会的事象への関心・意欲・態度の観点においては、0.8P下回っているという結果であった。また、すべての観点において個人差が大きいのが実態である。そこで、社会的な事象に興味や関心を持ち、課題に沿ってていねいに調べたり、必要な資料を探し出したり取捨選択したりすることを課題に取り組んできた。このことについては、多くの児童が達成できるようになってきたので、現在は資料から事象を読み取ったり、発言の際に、資料を根拠として示すことに取り組んでいる。
- 指導に当たっては、単元の導入に際して、原材料を加工し、その形や性質を変えて付加価値を加え、生活や産業に役立つ製品を作り出すという工業の意味についてとらえさせ、工業製品はわたしたちの暮らしのすべての面に密接に関わり、欠かせないものであるということに気づかせたい。また、どのような工業製品をどれくらい使っているかを調査し、その原材料は鉄や石油といった輸入されているものが多いことの事実気づかせたい。そして、自動車の原材料から製品づくり、生産された自動車が全世界の消費者に届くまでを一連の流れの中で学習することで、貿易や運輸の働きに支えられた自動車生産と、自分たちの生活に重要な役割を果たしている自動車生産について考えさせたい。その際の貿易の問題などの調べ学習においては、輸出力と現地生産拡大のグラフを**資料活用して**考えさせることにより、日本の自動車会社が行っている貿易における問題解決のための努力にも気づかせたい。同時に、まとめの段階では、これまでに調べたことから、「日本の自動車生産のシステムを自分たちの日常生活に例えてみる」という活動を行うことで自分たちの身近な生活と生産（つくる）と貿易・運輸（運ぶ）との関係を例えた**記述的なまとめ**ができるようにしたいと考える。

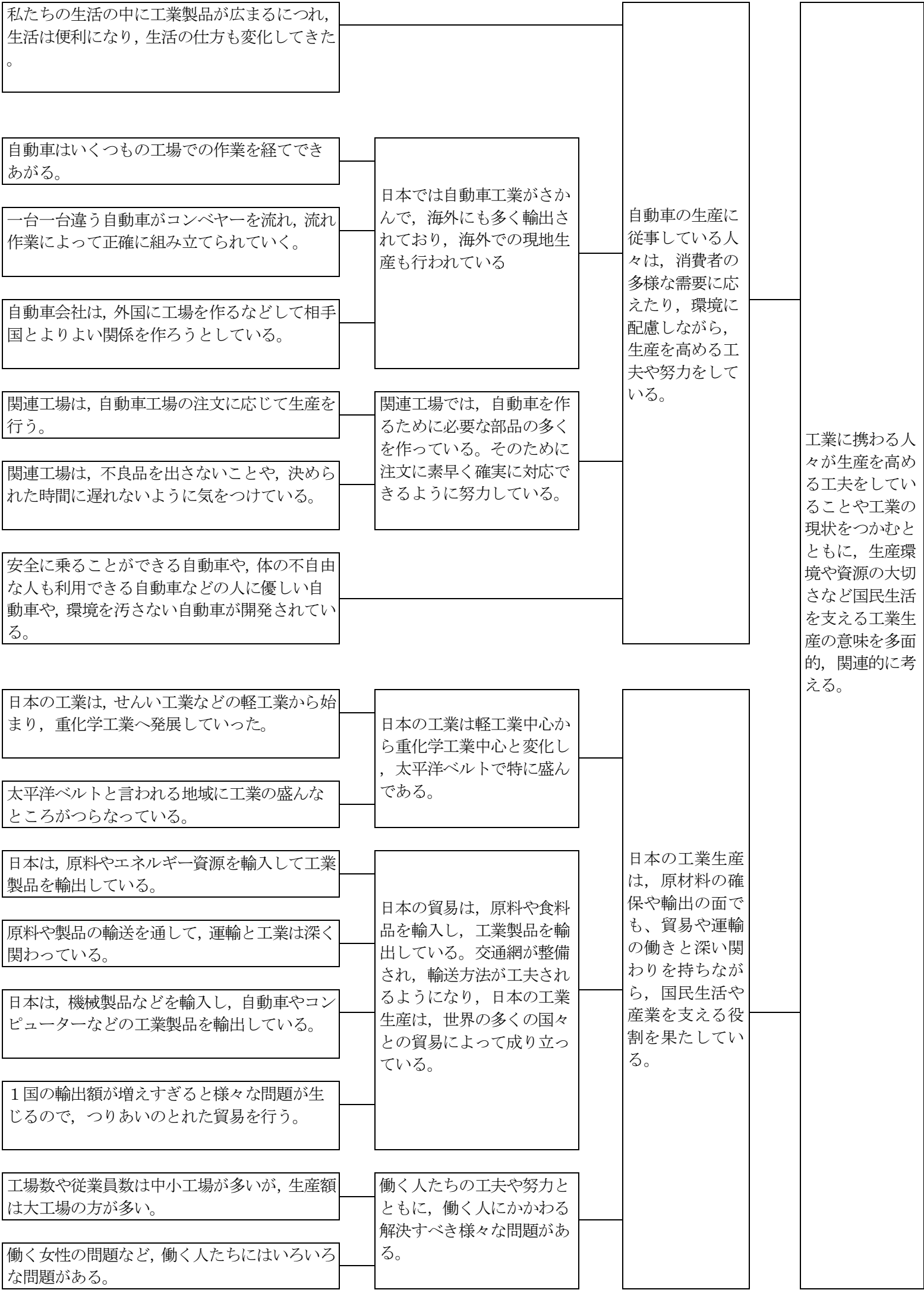
4. 単元の目標

- ・自動車をつくる工業を調べることを通して、生産に従事している人々が生産を高める工夫や努力をしていることがわかり、貿易や運輸の働きをとらえ国民生活を支える工業生産の意味について考えることができる。

5. 単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 観察・資料活用 の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
・自動車工業の生産の様子に関心を持ち、進んで調べようとしている。 ・人と環境にやさしい車づくりに関心を持ち、自動車生産の発展を願おうとしている。	・自動車生産の様子について問題意識を持ち、学習の見通しをもって追究・解決している。 ・自動車生産が効率よく、安定的に行なわれているわけについて、関連工場の協力やロボットによる生産などの工夫と関連づけて考えている。	・写真や文章資料と、各種の統計資料を目的に応じて読み取り、自動車生産の特色について、具体的に調べている。 ・調べた過程や結果を、分かりやすく表現している。	・我が国の自動車生産が、人々の生活を支えていることがわかる。 ・自動車工場の生産の特色やこれからの課題、従事している人々の工夫や努力がわかる。

6. 単元構造図



7. 単元指導計画（全18時間）

回数	時数	学習活動	評価規準				評価規準	評価方法
			関	思	技	知		
一 工業製品を調べよう	1	「工業製品とは何か」をとらえ、身の回りの工業製品にはどんなものがあるかを考える。（本時）	◎				・いろいろな種類の工業製品を、たくさん見つけることができる。	ノート
	2	身の回りにある工業製品を調べ、それらは日常生活や産業活動を支えていることをとらえる。（1）		◎			・工業製品が、私たちの暮らしの中で欠かせないものであることをとらえることができる。	発表 ノート
二 自動車工業の盛んな地域	3	くらしとつながっている自動車のことについて話し合い、調べていく視点を持つ。（1）	○				・くらしと自動車のつながりについて、自動車工場のことで調べていきたい視点を見つけることができる。	ノート
	4	自動車が多く工程を経て作られていることをつかみ、気づいたことをまとめ、表現する。（1）			○		・自分の考えが表れるように工夫してまとめることができる。	発表
	5	自動車の生産は、流れ作業による分業と働く人の工夫や努力によって、生産できることをとらえる。（1）		◎			・調べたことをもとにして、働く人の工夫や努力について考えることができる。	発表
	6	日本の自動車会社は、海外の工場でも生産していることを知り、これからのあり方を考える。（1）		◎			・これからの日本の自動車工業のあり方について、現地生産工場の広がり方から自分なりの考えを持つことができる。	ノート 発表
	7	部品を作る関連工場のことを調べ、そこで働く人の工夫や努力、苦勞に気づく。（1）		○			・関連工場で働いている人の立場に立って、工夫や努力、苦勞について考えることができる。	発表
	8	自動車工場と関連工場が協力することで、品質の高い自動車生産が実現できていることをとらえる。（1）				◎	・1台の自動車は、様々な工夫と働く人の努力や苦勞によって生産されていることを理解することができる。	ノート 発表
	9	人と環境のことを考えた車作りについて調べる。（1）			○		・人や環境にやさしい車づくりについて、意欲的に調べることができる。	行動観察
	10	自動車工場の見学を通して、学習のまとめを行う。（3）	◎				・学習したことをもとにして、意欲的に自動車工場を見学し、まとめることができる。	ノート 行動観察
	11							
	12	日本で盛んな工業の種類や生産額などについて調べ、その様子や特色をとらえる。（1）	◎				・日本の工業の種類やその特色をとらえながら、工業の様子を詳しく調べていこうとする関心・問題意識を持つことができる。	ノート 発表
三 日本の工業の特色	13	それぞれの工業地域・地帯の特色をとらえる。（1）			○		・工業のさかんな所などの資料を見て、それぞれの工業地帯。地域の特色をとらえることができる。	ノート
	14	工業原料やエネルギー資源や主な製品の動き、輸送機関の様子をとらえる。（1）				○	・我が国の工業生産は、原料・製品の輸送や加工貿易に支えられていることがわかる。	発表
	15	輸出入の様子や特色をつかみ、問題点気づき、解決策を考える。（1）				○	・日本の輸入・輸出の特色をつかみ、問題をまとめることができる。	発表
	16	中小工場で働く人々の生産を高めるための工夫や努力をとらえる。（1）		◎			・中小工場で働く人々が、生産を高めるために工夫や努力をしていることに気づくことができる。	ノート 発表
	17	働く人を守るためにきまりがあること、働く人にかかわる様々な問題に気づく。（1）			◎		・工場や会社で働く条件を良くするために、労働組合や国の決まりがあることを理解し様々な問題に気づくことができる。	ノート
四 まとめ	18	学習のまとめとしてこれからの工業製品パンフレットづくりをする（1）	◎				・自分の発想を生かし、これから役に立つと考える物やあったらいいと思う工業製品を考えることができる。	行動観察

8. 本時の学習

- (1) 本時の目標
 - ・「工業製品とは何か」をとらえ、身の回りの工業製品にはどんなものがあるかを考える。
- (2) 評価基準の観点
 - ◎いろいろな種類の工業製品を、たくさん見つけることができる。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

- (3) 準備物
- 指導者・・・いろいろな工業製品

(4) 本時の展開

過程	学習活動・発問及び予想される反応	資 料	学習への支援(○) 指導上の留意点(・)	評価基準と (評価方法)
導入 課題	①課題を確認する。 「工業製品」って何だろう。 ○いろいろな物を「工業製品」と「そうでない物」に分けてみよう。 ・工業製品・・・ドライヤー，電気スタンド，時計，鉛筆，紙，服， ・そうでない物・・・みかん、花 ②「工業製品」とはどのような物かを考える。 ・工場で作られた物 ・原材料を加工した物 ・「製品」として売るために作られた物 ・原材料を加工して，くらしに役立つようにしたもの	○いろいろな物 ・実物を分類させることにより，視覚に訴え，興味をもてるようにする。 ○プラスチック トレーの切れ端 ○手作りの焼き物 ・「製品」として「売れるもの」「役に立つ物」でないと「工業製品」にならないことを理解させる。		
中核 課題	③課題を確認する わたしたちの身の回りには，どんな工業製品があるだろう。 ○できるだけいろいろな種類の工業製品を，たくさん見つけて，ノートに書こう。 ○見つけた工業製品を分類してみよう。 ・家電製品 ・衣料品 ・乗り物 ・日用品 ・医薬品 ・大型機械 ・加工食品 ・家具 ・楽器		・同じ種類の物だけでなく、いろいろな分野から見つけて書けるようにする。 ○なかなか思いつかない児童に、例をヒントとして示したり、教科書や資料集等からも見つけるよう助言する	評価基準 A：7つ以上の分野から，工業製品を，20個以上書くことができる。 B：5つ以上の分野から，工業製品を，15個以上書くことができる。 (ノート・発表)
まとめ	④学習のまとめをする。 ○今日の学習で分かったことや更に調べてみたいことをノートに書こう。		・自分なりの言葉で，ノートにまとめるようにする。 ・課題に対するまとめができるようにする。	